

## 第5回「女性研究者のリーダーシップ」研究会のお誘い

この研究会は、愛知大学研究助成金による研究プロジェクト「女性研究者のリーダーシップ研究」の活動の一環として行われるものです。公開研究会ですので、研究会への参加は大いに歓迎いたしますので、興味のある方はどうぞご遠慮なくお越し下さい。今回のテーマは、「科学者奮闘記：女性と男性、災害問題への視点」をお話します。

テーマ：

# 科学者奮闘記：女性と男性、災害問題への視点

と き：2007年3月9日(金) 午後1:30～午後4:30

と ころ：京都大学 百周年時計台記念館 会議室 IV



講演



- ① 田崎和江先生  
(金沢大学院自然科学研究科(基礎系「理」)環境科学専攻環境動態講座教授)  
タイトル「重油事故から学ぶ現場の科学と鍛えられる学生」
- ② 中山俊雄氏  
(東京都土木研究所地盤環境グループ主任退職後土木技術センター技術調査課勤務)  
タイトル「地盤環境と災害」

田崎先生は、10年前、1月4日に、ナホトカ号重油流出事故が発生したときには、金沢大学の学生や地域の方々と一緒に重油汚染地域の環境修復に取り組まれた方です。年末に「ナホトカ号重油流出事故から10年、私たちは何を学んだか」の展示(当時の重油や汚染された砂、着ていたもの、ヒシヤク、バケツ、写真など200点)、12月19日にはフォーラム(科学者、住民、ボランティア、学生)を組織されました。その日は、平日にもかかわらず山の上の金沢大学に200名も参集してくれたということです。創作舞踏「重油との戦い」も大変好評だったようで、科学と環境を結びつけその活動振りに目を見張るものがあります。女性科学者が、戦争とどう向き合ってきたか、環境問題とどう取り組んでいるのか、に1つの典型例を与えています。

加えて、中山俊雄氏に、現場からの災害問題への視座を話していただきます。東京都の研究所に席を置き、長らく地盤災害問題に関わった取り組みを集大成し、その経験をもとに地盤と災害問題について、首都大学での集中講義を終えたところだそうです。現場技術者から見た大学研究者との連携のありかたや、大学研究者を外から見て思うことも多々あるということです。大学の研究と社会との接点を模索する議論がかみ合えば面白いと思います。

愛知大学共同研究助成金「女性研究者のリーダーシップ」(代表 坂東昌子) 主催  
女性研究者の会：京都 協賛